



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

96.12.12 No.4515

「国労解体針」今も「総連」 と対決し「革マル」打倒よ

JR東労組は、一二月までを「国労解体月間」として、国労(動労千葉)破壊攻撃を一齐に開始しています。その一つとして、JR東労組東京地本から国労東京地本に対して「公開討論の申し入れ」なる文書が出されました。

(1)、「改革法に基づいて推移している状況を承認する」ということは、国鉄改革法にもとづいて生み出された一〇四七名の存在も承認するのか・・・

(2)、「分割・民営を認め、JR各社の発展に寄与する」ということは、国労の方針転換を意味するが、いつ機関決定したのか、また具体的には職場でどのような努力をするのか・・・

など、国労の「八・三〇申し入れ」に対して、「国労の方針転換が本物であるならば大いに歓迎するものです。しかし職場での国労役員は、またぞろ本音と建前を使い分け、言い訳に終始しています。したがって私たちは、国労幹部の矛盾した姿勢を問い直すために「公開討論」を申し入れました」というものです。

考と屈服

この「申し入れ」の意味は、国労のJR各社に対する、いわゆる「八・三〇申し入れ」に基づいて推移している現状を承認する

とともに、基幹鉄道としてのJR各社の発展に寄与する。

(2)、「国労は健全かつ正常な労働関係の構築をはかる。」

(3)、「不採用及び配属事件等、全事件についての和解の方向が明確になれば、ただちに申し立て等の取り下げを行う・・・」

について、「国労の方針転換は本当なのか」「本音と建前の二枚舌ではないのか」「職場では何の変化もみられない!」

ようするに、国労の「八・三〇申し入れ」を右の側から批判して、「JR総連のように当局に全面屈服、全面協力することを証明して見せる」、そして、国労の方針転換は「中途半端」だから許せない、ゆえに「国労を解体」というとんでもないものです。

どくどくまんの JR総連

JR東労組のある幹部は、「国労解体は政府、JR資本の方針、その前に自分達JR東労組の力で潰す」といい、二兆兆円の累積債務問題をはじめ、分割・民営化の破綻が誰の目にも明らかとなり、その体制維持のために国労(動労千葉)破壊攻撃が激化する中で、今また分・民の時の様に、国労・動労千葉を解体すると約束して革マル組織を維持するために政府・当局の

先兵になったのと同じことをはじめたのです。

裏返せば、矛盾と危機を深めて追い詰められているのはJR総連の側です。国労と動労千葉が存在する限り、革マルの屈服と裏切りの歴史は隠すべきもない、支配権力からの「お払い箱」におびえ、JR当局との結託体制を守るために、最後の生き残りの道を「国労解体」に求められていることは明らかです。

今こそモウズ

革マルがいくら威勢のいいことを言っても、結局は「トラの威を借りるキツネ」です。JR東労組とは当局の力によって維持されている組織であることははっきりしています。

「助役になりたい」「運転士になりたい」「昇進・昇格の工事に釣られ、国労や動労千葉、仲間をけつとばして「自分だけが」という個人の私利私欲で「団結」しているにすぎません。

圧倒的多数のJR東労組が当局の手を借りて「国労を解体する」「こと自体、卑劣なファシストならではの口です。もちろん、このことで墓穴を掘るのは革マルです。

「仲間を裏切らない」「不当な解雇は許さない」「清算事業団闘争、不屈の闘いが多くの労働者の心をとらえます。革マルのこんな方針は誰も支持するはずがありません。労働者は闘う者を応援します。

「国労解体」よくぞ言ってくれました。断固としてうけてたとうではありませんか!闘えば、絶対に勝ちます。正義は我らの側にあります。今こそグラグラのJR当局!JR総連の結託体制を打ち破る絶好のチャンス到来だ!

国労の仲間達!「八・三〇申し入れ」を撤回し、JR東労組の「国労解体方針」に怒りを燃やし、分割・民営化からこの一〇年間の一切の闘いに決着をつけるために、職場・生産点から清算事業団闘争勝利、国鉄闘争勝利のためにJR総連解体・組織拡大の闘いに総決起しよう! 動労千葉はその最先頭で闘おう!

12.22
「改革法
反対
集会。」

12.15
「港
解放
東日本
共闘。」

12.14
-15
「動労総連
定期
全日大会。」